

問▶防災危機管理課(☎71)2220)

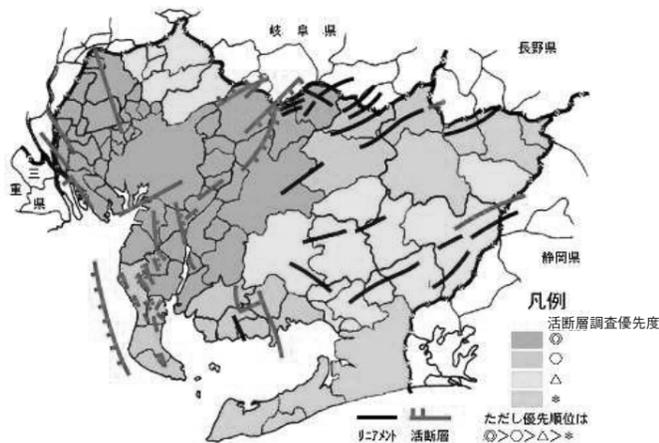
**内陸直下型地震の危険**  
 東海・東南海地震以外にも、地震の危険は潜んでいます。それは直下型地震。阪神・淡路大震災に代表されるこの地震は、いつ、どこで発生するか分かりません。この地域では、昭和20年にマグニチュード6.8の三河地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。  
 愛知県内には、直下型地震の原因と考えられている活断層やリニアメントが多数存在しています(下図)。

**東海・東南海地震はいつ起きてもおかしくない**

この地域で危惧されている東海・東南海地震。国の地震調査委員会は、今後30年以内に東海地震が発生する確率を88%程度、東南海地震が発生する確率を70%程度と発表しています。また、県が実施した「東海地震・東南海地震被害予測調査」(下表)によると、本市でも相当の被害が発生する見込みです。

愛知県内の活断層とリニアメント

出典：愛知県



**活断層**→今後も活動する可能性のある断層をいいます。断層が動くことで、地震が引き起こされると考えられています。図では、愛知県西部を中心に、多くの活断層が存在していることがわかります。

**リニアメント**→地表に認められる直線的な地形をいい、地震・地すべりなどの災害が予測されます。

東海・東南海地震連動被害予測調査(安城市関係分) 平成14・15年度愛知県実施

マグニチュード8.27、本市の震度5強～6強と想定した数

建物	全壊棟数	約2300棟
	半壊棟数	約7700棟
	出火件数※1	約40件
	焼失棟数※1	約210棟
ライフライン	上水道	約4万7000戸
	都市ガス	約1万9000戸
	LPGガス	約6400戸
	電力	約1万5000戸
	電話	約5100件
人的被害	下水道	約540人
	死者数※2	約40人
	負傷者数※2	約2100人
避難者	帰宅困難者※3	約1万6000人
	1日経過後の避難所生活者	約2万1000人

※最も被害が大きいと想定される時間帯での数  
 1→冬季午後6時発生 2→冬季午前5時発生 3→昼間時発生

現在、国は中央防災会議で被害想定の見直し作業をしています。県は、国の被害想定を受け、平成25年6月に新たな被害想定を発表する予定です。発表を受け、市では今後、見直しを進めていきます。



昨年3月11日午後2時46分、三陸沖で発生したマグニチュード9.0の巨大地震。この地震で発生した津波などにより、1万5800人を超える命が奪われ、現在でも3300人を超える人が行方不明となっています。また、全壊した建物は、12万7200戸に上りました。未曾有の大災害から1年。いま一度、災害への備えを考えましょう。

特集2

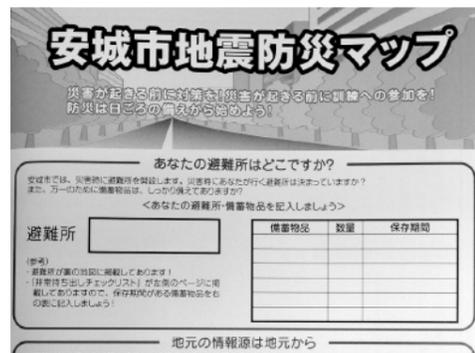
常に備えを

東日本大震災から1年

- 東日本大震災における安城市の被災地支援
- 職員派遣
  - 給水車での給水活動
  - り災証明事務支援
  - 保健活動支援
  - 道路・下水道復旧業務
  - 義援金支給のための審査・振込業務
  - 職員ボランティア活動
  - 支援物資
  - 備蓄品を市独自に発送
  - 個人・企業などから受け付けた支援物資を愛知県を通じ発送
  - 備蓄品を愛知県を通じ発送
  - 現地活動用自転車を提供
  - 義援金
  - 岩手県・宮城県・福島県に計1800万円を送金(市民一人当たり100円の義援金と換算)
  - 1月末日までに市社会福祉協議会などへ寄せられた義援金累計9368万5681円を随時送金
  - 避難者
  - 1月末日時点で、13世帯19人が本市に避難されています

## 特集2 常に備えを 東日本大震災から1年

問▶ 防災危機管理課(☎71)2220)



災害から身を守るには、普段からの備えが大切です。次の点を確認しておきましょう。

### 私たちができること

#### 家族で防災会議を

地震は、家族が離れ離れの時に起こる可能性も十分あります。普段から、お互いの連絡方法や避難場所を決め、避難経路の確認をしましょう。

#### ■自宅は安全か

●建物 地震で自宅が倒壊しないか、早めに耐震診断を受けましょう。昭和56年5月31日以前建築の木造住宅は、無料で診断を受けられます

●家の中 タンス・本棚・食器棚などの家具は、転倒防止のため金具などで固定し、特に寝室では、ガラス製品や重い物が落ちないようにしましょう。ガラスには、飛散防止フィルムを貼りましょう

#### ■備蓄はあるか

避難所に一緒に持ち出せるようにしましょう。

●準備しておくべき備蓄品 3日分以上の飲料水・食料、ラジオ

### 地域のことは自ら守る

災害時は、「自助」「共助」「公助」(※)が連携することで、被害を最小限にし、早期復旧・復興へとつながります。特に大きな力となるのは、地域の人の助け合い。そのうちの1つが自主防災組織です。

杉浦正之さん(古井町自主防災会会長)



古井町自主防災会は、町内会を主体に消防団・青年団・老人クラブなどの団体が連携して組織しています。昨年11月、防災貢献団体として県から表彰されました。これは昨年度、安城南部小学校で実施した避難所開設訓練を基に、町内向けの冊子「避難所生活の手引き」を作成するなどの活動が認められたためです。

目指すは、一人も見逃さない防災。まちの人全員の安否が確認できるよう、全世帯安否確認訓練を実施しています。この活動の鍵となるのが住民の町内会加入率。現在、99・8%ですが、100%になるよう努めています。災害発生直後は、消防など公



AEDの使用訓練を実施

的機関に頼ることは難しく、自分で自分を守ることも限界があります。その中で、重要な役割を果たすのが自主防災組織。少しでも円滑な運営ができるよう、毎年防災訓練を実施しています。特に昨年7月の訓練は、参加した皆さんの意識・真剣さが今までにない程高かったですね。「東日本大震災は他人事ではない」という印象を受けました。地域の人と顔見知りになる。

※自助→自分で自分の身を守ること  
共助→周りの人たちと助け合うこと  
公助→市役所や消防・警察による公的支援のこと

### 災害時要援護者支援制度

重度の障害者や一人暮らしの高齢者など、日常でも支援を必要とする人(要援護者)が、災害発生時に、地域で支援を受けられる制度があります。登録が必要となりますので、希望する人は、民生委員が社会福祉課(☎71)2224へ問い合わせてください。

災害発生時、総合・北部・作野・中部・西部・桜井の各福祉センターを、要援護者を対象とした福祉避難所として開設します。避難する場合は、介護者が付き添い、日常生活に必要な医薬品などを持参してください。



### 地域防災訓練・町内会行事に参加しましょう

消火器や応急担架などの使い方を勉強でき、非常食の炊き出しは避難生活に役立ちます。また、地域の人との交流の場ともなりますので、積極的に参加しましょう。

才、懐中電灯、衣類など

#### ■避難所はどこか

地区公民館、小・中学校、公立高校体育館、一部の保育園を指定しています。近くの避難所を確認しましょう。

#### ●地震防災マップ

避難所一覧、震度分布、液状化の危険度などを掲載しています。防災危機管理課、南部・桜井支所、北部出張所で配布しています

#### 地震が発生したら

- 丈夫な机などの下に身をかくし、安全を確保しましょう。
- 座布団などで頭部を保護し、

#### 地元の情報源は地元から

災害時は、地元放送局と連携し、適時きめ細かい情報を提供します。特に、ラジオ放送は、停電時でも聞くことができます。FM 83.8MHz(ピッチエフエム)にチャンネルを合わせてください。このほか、市役所公式ウェブサイト、ツイッター、ケーブルテレビKATCH地上デジタル12チャンネル、KATCH災害情報サイトなどがあります。

#### 安否確認には災害伝言ダイヤル171を

災害時は電話が狭い範囲で集中するため、非常につながりにくくなります。家族・知人の安否確認連絡には、災害用伝言ダイヤル171を活用しましょう。利用方法→171をダイヤルすると、音声ガイダンスが流れます。それに従い、伝言の録音・再生をしてください

- 転倒の危険のある家具からは離れましょう。
- 火の始末は、揺れが収まってからにしましょう。
- 扉や窓を開けて避難口を確保しましょう。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限にし、ヘルメットなどで頭部を保護しましょう。
- 高齢者や子どもと避難するときは、手を離さずに誘導しましょう。
- 倒壊しかけた家屋や電柱などには近寄らないようにしましょう。
- ラジオなどで、正確な情報を入手し、うわさに惑わされないようにしましょう。